

久慈市長選挙 遠藤讓一氏が再選

任期満了に伴う久慈市長選挙の投票が3月18日、市内60カ所の投票所で行われました。市民体育館で行われた即日開票の結果、遠藤讓一氏が再選しました。遠藤市長の任期は2022年3月25日までです。



3月11日に告示された、任期満了に伴う久慈市長選挙には届け出順に、嵯峨耆朗氏(無所属新)、遠藤讓一氏(無所属現)の2人が立候補しました。翌日から多くの有権者が市役所や山形総合支所に設置された期日前投票所で投票を行いました。今回の市長選挙の期日前投票の投票率は22.19%。前回の市長選挙と比較して4.16ポイントの増となり、制度の定着を裏付ける投票率となりました。

3月18日の投票日には、早朝から多くの人が投票所に訪れました。同日の午後8時からは市民体育館で開票が行われ、約160人の市民が参観する中、約2500票の差で遠藤讓一氏が再選しました。

投票当日の有権者数は2万9990人、投票者数は2万2911人、投票率は67.66%で平成26年の市長選挙を2.68ポイント下回りました。

投票・開票結果

当 遠藤 讓一 (64) 無所属・現 **11,320** 票
嵯峨 耆朗 (59) 無所属・新 **8,862** 票

	男	女	計
当日の有権者数(人)	14,305	15,685	29,990
投票者数(人)	当日投票者数	9,278	11,013
	うち有効投票	—	—
	うち無効投票	—	—
投票率(%)	64.86	70.21	67.66

女性にやさしい 子どもたちに誇れる 笑顔日本一のまち久慈

久慈市の皆さま、このたびの市長選挙において、市民の皆さまから改めて多くのご支持をいただき、引き続き久慈市政を担わせていただくことになりました。

災害からの復旧・復興
 これまでも東日本大震災や台風10号災害からの復旧・復興を最重点に取り組んできたところであり、東日本大震災対応については、順調に進ん

でいるところです。台風10号関連については、被災事業者のほとんどが復旧を果たしたところであり、道路・河川などの生活基盤の復旧は、建設業界の人手不足などにより、若干の遅れが出ていたところでしたが、この状況も徐々に解消され、工事も順調に進んでいく予定です。

また、今後の災害対策として雨水排水路や排水ポンプ整備と併せて、各地区の自主防災組織の結成化の向上と活動の充実を図ってまいります。

人口減少・少子化 高齡化対策

最重要課題である人口減少対策については、若者の地元定着率の向上や企業誘致を

む安定した雇用の受け皿の拡大が必要であります。また、子育て支援策のさらなる充実も図ってまいります。

広域道の駅 総合運動公園整備

八戸〜仙台間が無料で通行できる三陸沿岸道路の全線完成により、車の流れが内陸から三陸沿岸に大きくシフトすると予測されています。この高速道路の開通により、八戸〜久慈間が40分で結ばれることから、魅力ある誘客施設として、管内4市町村が連携・協力して、夏井町に「広域道の駅」を整備することとしております。管内4市町村の海・里・山の旬の豊富な産物を広域道の駅で販売することにより、一次産業のさらなる振興と所得の向上を図ることとなっております。

観光のまちづくり

観光については「あまちゃん」効果を持続しつつ、新た

にロケツーリズムやヘルスツーリズムにより、国内外から「大人」の誘客促進を図るとともに、久慈市の歴史・人物などに着目し、施設整備とともに市民の皆さまの学習の場づくりに力を入れてまいります。

市民参加による 「女性にやさしい 笑顔日本一のまち」 づくり

今後とも行財政改革を進めながら、対話重視の市政運営を継続し、市民の声を市政に反映させるとともに、市民目線に立った分かりやすい情報発信に努め、久慈市に「住みたい、住み続けたい」と思われる「女性にやさしい、子どもたちに誇れる 笑顔日本一のまち 久慈」を築いてまいります。

市民の皆さまのより一層のご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

久慈市長
遠藤讓一



Profile 遠藤讓一 えんどう・じょうじ
 64歳。中央大学法学部卒。昭和52年岩手県採用。青少年・男女共同参画課総括課長、県南広域振興局北上総合支局長などを歴任。平成26年に久慈市長に就任

Policy
 ▶復興災害プロジェクト▶出会いと地元愛プロジェクト▶子育てしやすい・女性にやさしいまちプロジェクト▶基幹産業活性化プロジェクト▶道路整備促進プロジェクト▶魅力ある仕事起こしプロジェクト▶みんなに愛されるマイバス・マイレールプロジェクト▶あまちゃんのふるさとを全国へ、世界へ広めます。